

*Ein Ehe der Maria Braun*

過去はひとつなのに  
ふたりの男性から愛されて……  
ドイツ戦後の夢を  
結婚に生きつつけるマリア

ニュー・ジャーマン・シネマの鬼才ファスビンダーの新しい傑作!



# マリア ブラウン の結婚

原案・監督  
ライナー・W・ファスビンダー

脚本ベーター・メルテスハイマー / ヒア・フレイリッヒ  
撮影ミハエル・バルハウス / フジカラー  
美術ノルベルト・シェーラー  
音楽ペーア・ラーベン  
製作ミハエル・フェングラー  
西ドイツ映画  
Albatros Film + Trio Film + WDR  
+ Filmverlag der Autoren

ハンナ・シグラ  
クラウス・レーヴィツチュ  
イヴァン・デニー

1979年ベルリン映画祭主演女優賞  
1979年イタリア・ドナテロ賞(最優秀映画作家)賞  
1979年ニューヨーク映画祭上映特別招待作品

傑作を世界からはこぶ  
ハウ・シリーズ bow フランス映画社提供







Rainer Werner Fassbinder

ライター・W・ファスビンダー 監督・脚本・主演の長編第1作を23才の若さで発表。いま30代前半で40本近くの長編がある多作家で、ゴダール以後最大のスクランダル・メイカー。79年ドナテロ賞(最優秀映画作家賞)を受賞。



Hanna Schygulla

\*ハンナ・シグラ 「マリア・ブラウンの結婚」で79年ベルリン国際映画祭で見事主演女優賞に輝いて、いま、アメリカでも人気沸騰。映画デビューからいらいファスビンダーの殆ど全作品に出演。〈ニュー・ジャーマン・シネマ〉の花である。

へ今、世界にあるのはニュー・ジャーマン・シネマのみである。フランシスコ・コッポラ監督。

まさに70年代、世界の映画界を震撼させたのは新しい西ドイツ映画だった。20代、30代の映画作家が続々と輩出し、商業的妥協のないアウトレン・フィルム(自作自監督映画)を作り、その水準の高さは世界の映画人の眼を見はらせた。中でもライター・W・ファスビンダーは「ノスフェラトゥ」のヴェルナー・ヘルツォークと共に、20年代ドイツ表現主義映画の二大巨頭フリッツ・ラングとムルナウの再来」と言われ(当人達はその影響を否定しているが)、既に第一級の映画作家として揺ぎない地位を築いている。

売る男(71)、『ペトラ・フォン・カントの苦い涙』(72)、『不安が魂を蝕ばむ』(73・カンヌ映画祭国際批評家賞)、『自由の代償』(75)、『絶望』(78)など、10年間に30本以上の作品を驚異的なペースで作りを続けている。アンチ・ハッピーエンドが希望につながる。

ファスビンダー映画には結婚制度の破壊、抑圧された性、社会的弱者の孤独な運命、などのモチーフが様々な形で設定されるが、一貫したテーマは処女作『愛は死よりも冷酷』のタイトルに象徴される『愛の不可能性』である。それを明らかにさまざまな政治的社会的視点からではなく、登場人物たちの日常的でヴィヴィッドな心理的関係性の悲劇として描く。絶望的なまでの愛の飢餓感に打ちひしがれる人間。それがファスビンダーの主人公たちだ。ファスビンダーは言う。

「僕の映画は一作一作、人間の行動に関する独立した談話みたいなもので永遠に絶望的なものでなくてはいけないんだ。最初から最後まで希望の入り込む余地なんてない。観客の思考プロセスのなかで、それが結局、希望へと繋がっていく。ハッピーエンドなんてカッたるいだけさ」

傑作の結晶! 『ニュー・ジャーマン・シネマ』未曾有の大ヒット!

「マリア・ブラウンの結婚」は西ドイツで79年5月に封切られ、ジャーナリズムの驚嘆と絶賛。偉大な映画だ。戦後ドイツの実に正確なレプリカ(シユビゲル誌)を呼び、商業的にも百三十万人の観客動員という「ニュー・ジャーマン・シネマ」としては異例の成功を収めた作品である。79年9月に開催されたニューヨーク映画祭にも招待作品として出品され、傑作の結晶! (ヴィレッジ・ヴォイス)、『叙事詩的コメディとロマンチックなバラードが見事に合体』(ニューヨーク・タイムズ)などと賛辞を受け、10月のアメリカ一般公開でも記録的なヒットをとばしている。

マリヤ役でベルリン映画祭主演女優賞をうけたハンナ・シグラは、ファスビンダーの演劇時代からの仲間で実力十分の演技派。妖し

い魅力と成熟した美しきで、50年代ファッションを見事に生きかえらせたばかりか、ディートリッヒとジョン・ハローの再現! (ニューヨーク・マガジン)と最大級の賛辞を受けている。

舞台は第二次大戦敗戦前後から戦後10年間のドイツ。東部戦線から帰還した夫は、マリヤの殺人の身代りとなって獄中へ。夫の帰還を待つて人生を準備する決意をしたマリヤは、実業家オスワルトの秘書となつて、美貌と才覚を武器に戦後の混乱期を大胆に生き抜く。オスワルトとの愛、獄中の夫への変らぬ愛。そしてオスワルトが急死し、……出獄後カナダへ旅立っていた夫がやっと戻ってくる。が、それをつかの間、マリヤは事故とも自殺ともつかない謎の死を遂げる……

耽美的な映像、遠近感を生かした見事な空間感覚(この映画ではネガティヴにフジ・フィルムを使って抜群の効果をあげている)、そして軽快でパンチの強い語り口。ファスビンダーは彼のプライベートな恋愛感でもあるマリヤの愛の不条理を、経済復興を果たして管理国家化していく西ドイツの戦後史への疑問に重ね合わせて、異様なまでに美しい映像フォルムに結実させている。

【スタッフ】  
原案・監督……………ライター・ヴェルナー・ファスビンダー  
脚本……………ベーター・メルテスハイマー、ピア・フレリッヒ  
撮影……………ミハエル・バルハウス  
美術……………ノルベルト・シェラー  
音楽……………ペーア・ラーベン  
製作……………シハエル・フェングラー

【キャスト】  
マリヤ・ブラウン……………ハンナ・シグラ  
ヘルマン・ブラウン……………クラウス・レーヴィツ  
オスワルト……………イヴァン・デニュー  
ゼンケンベルク……………ハーク・ホーム  
母親……………ギーゼラ・ウーレン  
ベティ……………エリーザベト・トリッセナー  
西ドイツ映画 Albatros Film+ Trio Film+WDR+ Filmverlag der Autoren  
フジカラー/ヴィスタサイズ/2時間(6巻、3,300m)  
1979年イタリア・ドナテロ賞(最優秀映画作家賞)、ベルリン映画祭主演女優賞受賞  
ニューヨーク映画祭閉幕上映特別招待作品



# マリア・ブラウンの結婚



特別鑑賞券1000円絶賛発売中 ■ 1月中旬より 正月第2弾 ロードショー

(一般1300円・学生1100円のところ)  
劇場窓口他都内各プレイガイドでお求め下さい。  
●団体鑑賞のお申し込みはフランス映画社  
(586)6401またはメジャー(543)6093へ

有楽町 日劇前 ニュー東宝 シネマ2 (571) 1947

<上映時間>  
<月→土> 11:40 2:05 4:30 6:55  
<日・祝> 10:50 1:15 3:40 6:05